

36 caption

picture

Narration

映像：
診察室内で患者夫婦
(30-40歳代)が医師より
説明を受けている。

新しく撮影



サリドマイドによる被害を防ぐ最も安全な方法は、一切の性交渉を行わないことですが、妊娠する可能性のある女性と男性が性交渉する場合には、どちらが患者さんであっても、男女それぞれが同時に避妊手段をとらなければなりません。

秒

37-1 caption

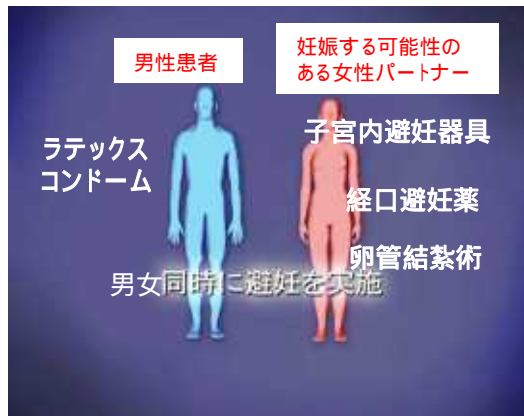
picture

Narration

映像：
前回CGを流用

ナレーションに
あわせて番号順に表示

前回のイラスト使用



男性患者さんはコンドームを着用してください。
男性のイラスト光る 表示

同時に、
妊娠する可能性のある女性パートナーの方は、
女性のイラスト光る

子宮内避妊器具の装着 表示

経口避妊薬の服用 表示、

卵子の通り道を切断する卵管結紮術 表示

のうち一種類以上の避妊方法を選択してください。

秒

37-2 caption

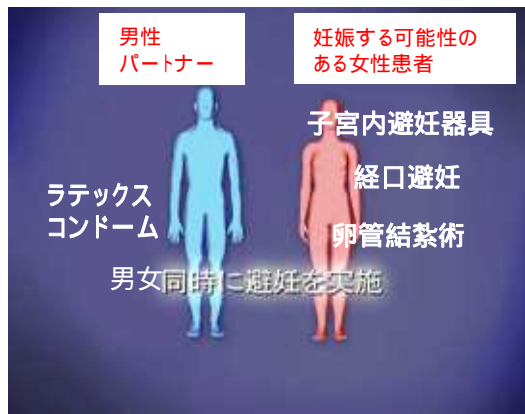
picture

Narration

映像：
前回CGを流用

ナレーションに
あわせて番号順に表示

前回のイラスト使用



妊娠する可能性のある女性患者さんは、
女性のイラスト光る

子宮内避妊器具の装着 表示

経口避妊薬の服用 表示、

卵子の通り道を切断する卵管結紮術 表示

のうち一種類以上の避妊方法を選択してください。

同時に 男性パートナーの方はコンドームを着用してください。 男性のイラスト光る 表示

もし、避妊に失敗したと思ったら、すぐに担当の医師に連絡してください。

秒

38 caption

picture

Narration

映像：
No.2, 3と同様に
診察室や薬局での
医師、
薬剤師、
患者と家族(50-60歳代)
のシーン
(できるだけ異なる映像)

新しく撮影



サリドマイドは、
多発性骨髄腫の治療薬として認可されました。

このサリドマイドは
間違った使い方をすればお腹の中の子供に
被害を及ぼす危険な薬です。

秒

39 caption

picture

Narration

映像：
No.38の映像を引っ張り
つつ、

•患者自宅
•患者(50-60歳代)が自
宅で調査票を FAXして
いるシーン。

•TERMSオフィス
•TERMSオフィスにて
FAXを受け取るシーン

• **新しく撮影**



サリドマイドはアメリカやオーストラリアなどでも販売されており、それらの国々では患者、医師、薬剤師は厳格な管理システムのもとサリドマイドを使用しています。日本だけが特別なわけではありません。

サリドマイド治療に関わる医療関係者、患者さんとそのご家族の方々は、サリドマイドの危険性と安全な使用方法を十分に認識し、理解したうえで、この薬を使用する責任があります。

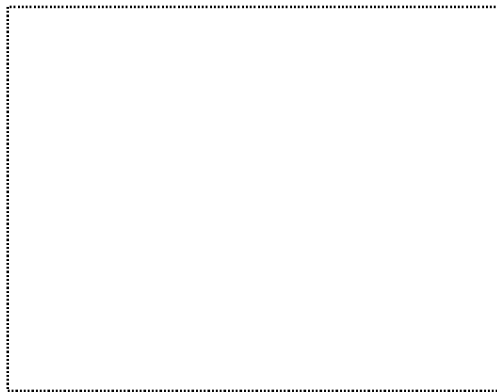
40 caption

picture

Narration

映像：
TERMSのオフィスの
オペレーターがデータ
を入力するシーン

TERMS
前回の映像使用



藤本製薬は、患者さんがサリドマイドを服用する前、服用中、そして服用終了後を通して、

サリドマイドの保管や管理、妊娠回避が適切になされていることを確認する責任があります。

秒

41 caption

picture

Narration

映像：
医師が調査用紙に記入し、
投函するシーン

患者さん(50-60歳代)が
電話をかけて
いるシーン。

同時2分割あり
第三者評価機関のオペ
レーターが電話で対応
しているシーン

新しく撮影

第三者評価機関への調査にご協力ください。

さらに、これらの責任が果たされていることを第三者的に評価する必要があります。

医師、薬剤師、そして、患者さんは、日常行う確認以外に、定期的に行われる第三者評価機関による調査に御協力下さい。

秒

42 caption

picture

Narration

TERMSオフィス

F.O. 白オチ

テロップ

サリドマイド被害者
からのメッセージ

サリドマイド被害者からの
メッセージ

最後にサリドマイド被害者からのメッセージをお聞きください。

秒

映像:メッセージ映像

1分半から2分程度のインタビュー映像を新たに撮影。

撮影場所は藤本製薬東京支社にて



みなさんこんにちは。財団法人いしずえで理事をしている増山ゆかりと申します。財団法人いしずえは、サリドマイド被害者のための福祉センターです。

2000年の夏、サリドマイドが再び治療に使われているという新聞記事を読んだとき、あれだけの惨劇を起こしたサリドマイドが再び医薬品として脚光を浴びる、ということが信じられませんでした。

1960年代に「つわり止め」として市販されていたサリドマイドを服用した母から生まれた私には、腕がほとんどありませんでした。幼い頃は寝たきりで、大人になるのは難しいと言われながら育ちました。妊婦がサリドマイドを服用すると、赤ちゃんは薬の副作用で十分に成長できないまま生まれます。腕や耳などを失うだけではなく、心臓などの内臓にも奇形が出ることもあり、多くの方が死産、流産で亡くなりました。

それらを含めると死亡率は、50%を超えていたと言われていています。今でも障害による症状に苦しみ、治療を必要としている人がたくさんいます。サリドマイドによる薬禍は、私たちにとって今も続いています。

しかし、その苦しみを受け入れることで、私たちは人生を切り開いてきました。サリドマイドが治療の難しい骨髄腫の治療薬として使われていると聞いて、薬の使用を止めようという選択肢はなくなりました。私は、もしサリドマイドが本当に人を救うことができるのであれば、私たちのためにも、たくさんの命を救って欲しい、と思うようになりました。

強い副作用をコントロールすることは、そんなに簡単ではないということも私たちは知っています。日本ではサリドマイド以降も、スモン、エイズ、肝炎など、薬による悲劇は終わりませんでした。そのたびに健全な医療のあり方が問われました。薬の安全性を確保することの難しさは、繰り返された薬害という歴史が語っています。

サリドマイドによって苦しむのは私たちで終わらせたいと思っています。体の自由を奪われ、多くの困難を抱えることを知っているからです。

サリドマイドを服用する方やその家族の方々、医師・薬剤師や治療に関わるすべての医療者に、悲劇を繰り返さないよう最善を尽くして欲しいのです。

最後になりましたが、骨髄腫の患者の皆様が、サリドマイドによって健康を回復されることを心より祈っています。

44 caption

picture

Narration

映像:
インタビュー映像

F.O. (フェイドアウト:
白オチ)

文字テロップ

このお薬が多発性骨髄腫の治療に
役立つことをこころより願っています。

ナレーション音声なし
テロップのみ

秒

45 caption

picture

Narration

映像:
テロップ

藤本製薬株式会社

F.O. 白オチ

藤本製薬株式会社